

平成17年度高等学校教育課程実施状況調査 教科・科目別分析と改善点 (公民・倫理)

1. 今回の調査結果のポイント

【ペーパーテスト調査】

<青年期の課題と人間としての在り方生き方>

- 「青年期の課題と人間としての在り方生き方」では、通過率が設定通過率を上回る又は同程度（以下、「と同程度以上」という）と考えられる問題数は、21問中15問であり、全体の問題数の半数以上を占めた。
- 「ア 青年期の課題と自己形成」についての問題3問のうち、1問は通過率が設定通過率を下回ると考えられ、無解答率も高い。
- 「イ 人間としての自覚」では、通過率が設定通過率と同程度以上と考えられる問題数は、10問中8問であり、全体の問題数の半数以上を占めた。
- 「ウ 国際社会に生きる日本人としての自覚」では、通過率が設定通過率と同程度以上と考えられる問題数は、8問中5問であり、全体の問題数の半数以上を占めた。

<現代と倫理>

- 「現代と倫理」では、通過率が設定通過率と同程度以上と考えられる問題数は、24問中16問であり、全体の問題数の半数以上を占めた。
- 「イ 現代に生きる人間の倫理」では、通過率が設定通過率と同程度以上と考えられる問題数は、10問中7問であり、全体の問題数の半数以上を占めた。
- 「ウ 現代の諸課題と倫理」は、生徒の主体的な課題追究を促し、自らが積極的にこれらの課題に取り組んで生きる態度を養うことをねらいとしている。この中項目については、通過率が設定通過率と同程度以上と考えられる問題数は、14問中9問であり、全体の問題数の半数以上を占めた。
- 記述式問題について、通過率と設定通過率を比較すると、通過率が設定通過率と同程度以上と考えられる問題数は10問中7問であり、全体の問題数の半数以上を占めた。
- 前回の調査結果では、自分の生き方と関連付けて考えさせるような問題については、通過率が設定通過率を下回る傾向にあり、倫理の学習において、身近な生活と関連付けて、学習内容を生きる知識として身に付けさせることが課題であったが、今回のペーパーテストによる調査においても、同様の結果がみられた。

【質問紙調査】

- 生徒質問紙でみた場合、「倫理の勉強は大切だ」に対して、肯定的回答の割合は否定的回答の割合を10ポイント以上上回るのに対し、「人格形成に役立つよう、倫理を勉強したい」及び「社会の一員としてよりよい社会を考えることができるよう、倫理を勉強したい」に対しては、否定的回答の割合が肯定的回答の割合よりもそれぞれ10ポイント以上高かった。
- 課題解決的な学習に対する生徒の意識については、「好きだ」、「どちらかといえば好きだ」という肯定的な回答割合は少なく、また、実際にそのような学習を「まったく又はほとんど行っていない」という回答が約50%を占めた。
- 教師質問紙でみた場合、発展的な課題を取り入れた授業については、肯定的な回答の割合は約40%であったが、前回調査と比較して約10ポイント増加した。

2. 今回の調査結果の特色

(1) 現行の高等学校学習指導要領（平成11年告示）の改訂の要点等

平成11年告示の高等学校学習指導要領（以下、「現行学習指導要領」）における公民科の科目は、前学習指導要領と同様「現代社会」、「倫理」、「政治・経済」から構成されているが、「現代社会」は標準単位数が4単位から2単位に減じられている。

必履修科目については、「現代社会」又は「倫理」及び「政治・経済」のどちらかとなっている。

科目の内容については、三つの科目の特質を一層明確にするよう内容の改善が図られ、内容が厳選されている。特に、課題を設定し追究する学習を重視し、各科目でそれぞれの特質に応じた諸課題を選択的に取り上げて考察し、社会的事象に対する客観的で公正な見方や考え方を深めることができるようにするとともに、現代社会の諸課題と人間としての在り方生き方について考える力を一層養うことができるように改善が図られている。

「倫理」では、自己や現代の倫理的課題を主体的に追究し、人間としての在り方生き方についての理解と思索を深め、生きる主体としての豊かな自己形成を図ることができるようにするため、自己の課題とつなげて先哲の基本的な考え方を手掛かりとして人間としての在り方生き方について学ぶ項目と、現代の倫理的課題について思索を深め現代社会をいかに生きるかについて主体的に学ぶ項目とで内容を構成した。また、心理学的な内容に関する事項については、他教科との関連を考慮して精選した。

こうしたことから、従前と比べて、公民科の科目構成は同じであるが、各学校における生徒の履修状況も大きく異なってきたことが考えられるため、前回調査と同一問題をみる際には留意する必要がある。

(参考) 公民科の科目構成

平成元年告示高等学校学習指導要領			平成11年告示高等学校学習指導要領		
科目名	標準単位数	必履修科目	科目名	標準単位数	必履修科目
現代社会	4	☐ ☐ ☐ どちらかを選択	現代社会	2	☐ ☐ ☐ どちらかを選択
倫理	2		倫理	2	
政治・経済	2		政治・経済	2	

(参考) 履修学年

調査年度（科目名）	1学年	2学年	3学年	1・2学年	1・3学年	2・3学年	1・2・3学年
平成15年度（倫理）	39.4%	25.5%	30.6%	0.6%	2.1%	1.6%	0.2%
平成17年度（倫理）	28.2%	19.1%	48.4%	1.6%	0.6%	1.6%	0.5%

(2) ペーパーテスト調査結果の主な特色

① 過去同一問題についての分析

前回調査（平成15年度調査）と同一問題の通過率を比較すると、全問とも前回と有意に差はない。

全問題数	同一問題数	前回は有意に上回るもの	前回と有意に差がないもの	前回は有意に下回るもの
45	10	0< 0.0%>	10<100.0%>	0< 0.0%>

② 内容の項目別にみた分析

全体としては、通過率が設定通過率と同程度以上と考えられる問題数は、45問中31問であり、全体の問題数の半数以上を占めている。内容・領域別の状況は以下のとおりである。

大項目	問題数	上回ると考えられるもの	同程度と考えられるもの	下回ると考えられるもの
(1) 青年期の課題と人間としての在り方生き方	21	8<38.1%>	7<33.3%>	6<28.6%>
(2) 現代と倫理	24	8<33.3%>	8<33.3%>	8<33.3%>
合 計	45	16<35.6%>	15<33.3%>	14<31.1%>

<青年期の課題と人間としての在り方生き方>

中項目	問題数	上回ると考えられるもの	同程度と考えられるもの	下回ると考えられるもの
ア 青年期の課題と自己形成	3	1	1	1
イ 人間としての自覚	10	3	5	2
ウ 国際社会に生きる日本人としての自覚	8	4	1	3
小 計	21	8<38.1%>	7<33.3%>	6<28.6%>

「(1) 青年期の課題と人間としての在り方生き方」では、通過率が設定通過率と同程度以上の問題数は、21問中15問であり、全体の問題数の半数以上を占めている。

「ア 青年期の課題と自己形成」についての問題3問のうち、1問は通過率が設定通過率を上回ると考えられるが、ルソーの第二の誕生に関する記述式の問題[A1](2)では、設定通過率60%に対して通過率52.3%と、通過率が設定通過率を下回ると考えられ、無解答率も39.8%となっている。

「イ 人間としての自覚」では、通過率が設定通過率と同程度以上の問題数は、10問中8問であり、全体の問題数の半数以上を占めているが、例えば、アリストテレスの中庸の徳に関する問題[A2](2)では、設定通過率60%に対して通過率44.2%と、通過率が設定通過率を下回ると考えられる。同問題については、誤答の中には、万物の根源を探究した自然哲学に関して記述している選択肢の反応率が36.5%と高かった。

「ウ 国際社会に生きる日本人としての自覚」では、通過率が設定通過率と同程度以上の問題数は、8問中5問であり、全体の問題数の半数以上を占めているが、例えば、明治時代における日本の西洋思想の受容に関する問題[B5](3)では、設定通過率60%に対して通過率42.8%と、通過率が設定通過率を下回ると考えられる。

<現代と倫理>

中項目	問題数	上回ると考えられるもの	同程度と考えられるもの	下回ると考えられるもの
ア 現代の特質と倫理的課題		出題なし		
イ 現代に生きる人間の倫理	10	4	3	3
ウ 現代の諸課題と倫理	14	4	5	5
小 計	24	8<33.3%>	8<33.3%>	8<33.3%>

「(2) 現代と倫理」では、通過率が設定通過率と同程度以上と考えられる問題数は、24問中16問であり、全体の問題数の半数以上を占めている。「ウ 現代の諸課題と倫理」は、現代の諸事象における倫理的諸課題の中から課題を選択し、生徒が主体的に課題を追究する学習へ発展させ、これらの課題追究を通して、自らが積極的にこれらの課題に取り組んで生きる態度を養うことをねらいとしている。

「イ 現代に生きる人間の倫理」では、通過率が設定通過率と同程度以上と考えられる問題数は、10問中7問であり、全体の問題数の半数以上を占めているが、例えば、社会契

約の思想に関する問題 [B7] (2)] では、設定通過率55%に対して通過率29.0%と、通過率が設定通過率を下回ると考えられる。同問題においては、誤答の中には、ロックの主張した三権分立を日本国憲法における内閣・国会・裁判所の独立と結び付けている選択肢の反応率が40.9%と高かった。

「ウ 現代の諸課題と倫理」では、通過率が設定通過率と同程度以上と考えられる問題数は、14問中9問であり、全体の問題数の半数以上を占めているが、例えば、国際協力に関する問題 [A10] (1)] では、設定通過率70%に対して通過率54.8%と、通過率が設定通過率を下回ると考えられる。

③ 評価の観点別にみた分析

評価の観点別に通過率と設定通過率を比較すると、通過率が設定通過率と同程度以上と考えられる問題数が、半数以上を占めている。観点別の状況は以下のとおりである。

評価の観点	問題数	上回ると考えられるもの	同程度と考えられるもの	下回ると考えられるもの
関心・意欲・態度	8	3<37.5%>	3<37.5%>	2<25.0%>
思考・判断	17	6<35.3%>	6<35.3%>	5<29.4%>
資料活用の技能・表現	6	2<33.3%>	2<33.3%>	2<33.3%>
知識・理解	22	8<36.4%>	7<31.8%>	7<31.8%>

(注) 複数の評価の観点にまたがる問題があるため、前記の表の問題合計数と異なる。

倫理の「関心・意欲・態度」の観点は、「人間尊重の精神と自己形成について関心を高め、人格の形成と生きる主体としての自己の確立に努める実践的意欲をもつとともに、これらにかかわる諸課題を探究する態度を身に付け、人間としての在り方生き方について自覚を深めようとする事」を趣旨としている。

「関心・意欲・態度」の観点に関する問題では、通過率が設定通過率と同程度以上と考えられる問題数は、8問中6問であり、全体の問題数の半数以上を占めているが、例えば、「(1) 青年期の課題と人間としての在り方生き方」の人間の本性に関する問題 [A3] (2)] では、設定通過率55%に対して通過率35.0%と下回っている。しかし、正答の中には、人間の本性を「性善」あるいは「性悪」とするなかから、人間にとっての「善なるもの」、「悪なるもの」についてのより深い思索に向かう解答や、人間の善性の拡張、あるいは矯正のための他律的規範の必要性などにまで言及する解答もみられた。

「思考・判断」の観点は、「生きる主体としての自己の確立について広く課題を見だし、人間の存在や価値などについて多面的・多角的に考察し探究するとともに、良識ある公民として広い視野に立って主体的かつ公正に判断すること」を趣旨としている。

「思考・判断」の観点に関する問題では、通過率が設定通過率と同程度以上と考えられる問題数は、17問中12問であり、全体の問題数の半数以上を占めているが、例えば、「(2) 現代と倫理」の情報社会に関する問題 [B9] (3)] では、設定通過率65%に対して通過率54.5%と下回っている。

「資料活用の技能・表現」の観点は、「青年期における自己形成や人間としての在り方生き方などに関する諸資料を様々なメディアを通して収集し、有用な情報を主体的に選択して、これらを自己形成に資するよう活用するとともに、追究し考察した過程や結果を様々な方法で適切に表現すること」を趣旨としている。

「資料活用技能・表現」の観点に関する問題では、通過率が設定通過率と同程度以上と考えられる問題数は、6問中4問であり、全体の問題数の半数以上を占めているが、例えば、「(2) 現代と倫理」の核家族化に関する問題 [B8] (1)] では、設定通過率60%に対して通過率40.5%と下回っている。同問題においては、誤答の中には、「夫婦のみ世帯」の割合の増加予測に対する背景を考察する選択肢への反応率が27.1%と高く、資料の読み取りの他に、精確な諸事象の関連付けや分析・考察等が求められる。

「知識・理解」の観点は、「青年期における自己形成や人間としての在り方生き方などにかかわる基本的な事柄を、生きる主体としての自己確立の課題とつなげて理解し、人格の形成に生かす知識として身に付けていること」を趣旨としている。

「知識・理解」の観点に関する問題では、通過率が設定通過率と同程度以上と考えられる問題数は、22問中15問であり、全体の問題数の半数以上を占めているが、例えば、「(1) 青年期の課題と人間としての在り方生き方」の夏目漱石の個人主義に関する問題 [B5(2)] では、設定通過率60%に対して通過率51.6%と下回っている。

④ 問題形式別にみた分析

問題形式でみた場合、全問題45問中10問の記述式問題を出題したが、記述式問題について、通過率と設定通過率を比較すると、通過率が設定通過率と同程度以上と考えられる問題数は7問であり、全体の問題数の半数以上を占めている。しかし、例えば、国際的な連帯や支援に関する問題 [A10(2)] では、設定通過率55%に対して通過率48.7%と下回り、無解答率は39.6%となっている。

⑤ 現行学習指導要領において重視している点

平成11年の学習指導要領改訂によって、倫理は課題選択による学習を新たに設け、現代に生きる人間としての在り方生き方にかかわる諸課題の主体的追究を促すことを目指すこととなった。特に、大項目「(2) 現代と倫理」の中項目「ウ 現代の諸課題と倫理」は、生徒の主体的な課題追究を促し、自らが積極的にこれらの課題に取り組んで生きる態度を養うことをねらいとしている。この中項目については、通過率と設定通過率を比較すると、通過率が設定通過率と同程度以上の問題数は、14問中9問であり、全体の問題数の半数以上を占めている。

⑥ 前回調査で課題とされた内容との関連

倫理の学習においては、人間としての在り方生き方について思索を深め、生きる主体としての自己の確立を促し、良識ある公民としていかに生きるべきかという倫理的な自覚を深めさせることが重要となる。すなわち、倫理においては、生徒が自分自身の生き方を自己の生きる課題とつなげて探究していくことが重要である。

前回の調査結果では、先哲の基本的な考え方を手掛かりとして自分の生き方と関連付けて考えさせるような問題は、通過率が設定通過率を下回る傾向にあり、倫理の学習において、身近な生活と関連付けて、学習内容を生きる知識として身に付けさせることが課題となった。今回のペーパーテストによる調査においても、先哲の基本的な考え方を手掛かりとして自分自身の考え方や自分の体験と関連付けて自己の生きる課題として考えさせるような問題は、通過率が設定通過率を下回る傾向にあり、同様の課題が示される結果となった。

(3) 質問紙調査の結果の概要

① 生徒質問紙調査

生徒質問紙でみた場合、「倫理の勉強は大切だ」に対して、肯定的回答の割合は否定的回答の割合を10ポイント以上上回るのに対し、「人格形成に役立つよう、倫理を勉強したい」及び「社会の一員としてよりよい社会を考えることができるよう、倫理を勉強したい」に対しては、否定的回答の割合が肯定的回答の割合よりもそれぞれ10ポイント以上高い。

倫理の学習に対する生徒の意識

質問事項	肯定的な回答の割合	否定的な回答の割合
「倫理の勉強が好きだ」	40.0% <37.2%>	53.5% <55.5%>
「倫理の勉強は大切だ」	50.9% <47.2%>	38.9% <41.7%>
「倫理を勉強すれば、私の入学試験や就職試験に役立つ」	19.8% <18.0%>	69.0% <72.0%>

※< >内は平成15年度調査結果

質問事項	肯定的な回答の割合	否定的な回答の割合
「倫理を勉強すれば、私の好きな仕事につくことに役立つ」	19.3% <17.2%>	68.7% <71.2%>
「倫理を勉強すれば、私の普段の生活や社会生活の中で役立つ」	41.8% <39.5%>	47.1% <49.5%>
「倫理を勉強すれば、私の人格形成に役立つ」	47.2% <45.4%>	41.2% <42.9%>
「倫理を勉強すれば、私は、社会の一員としてよりよい社会を 考えることができるようになる」	41.8% <38.5%>	43.6% <47.4%>
「入学試験や就職試験に役立つよう倫理を勉強したい」	18.3% <15.3%>	72.1% <76.5%>
「自分の好きな仕事につけるよう、倫理を勉強したい」	17.7% <15.5%>	72.0% <75.4%>
「普段の生活や社会生活の中で役立つよう、倫理を勉強したい」	33.6% <30.3%>	56.5% <60.9%>
「人格形成に役立つよう、倫理を勉強したい」	37.8% <34.9%>	52.0% <56.1%>
「社会の一員としてよりよい社会を考えることができるよう、 倫理を勉強したい」	35.8% <30.4%>	52.5% <59.4%>
「将来、倫理の勉強を生かした仕事をしたい」	11.9% <9.3%>	77.3% <80.6%>

※< >内は平成15年度調査結果

課題解決的な学習に対する生徒の意識については、「倫理の授業で、生き方や倫理的課題について討論する（話し合う）学習は好きですか」、「倫理の授業で、テーマを設けて調べる学習は好きですか」、「倫理の授業で、自分の考えたことや調べたことをレポートや報告書にまとめたりすることは好きですか」、「倫理の授業で、自分の考えたことや調べたことを発表する学習は好きですか」に対して、「好きだ」、「どちらかといえば好きだ」という肯定的な回答は少なく、実際にそのような学習を「まったく又はほとんど行っていない」という回答が約50%を占めている。

倫理の学習状況

質問事項	肯定的な回答の割合	否定的な回答の割合	まったく又はほとんど行っていない
「倫理の授業で、生き方や倫理的課題について討論する（話し合う）学習は好きですか」	16.3% <14.3%>	30.4% <26.6%>	52.5% <58.1%>
「倫理の授業で、テーマを設けて調べる学習は好きですか」	16.2% <13.2%>	34.4% <30.3%>	48.7% <55.5%>
「倫理の授業で、自分の考えたことや調べたことをレポートや報告書にまとめたりすることは好きですか」	12.4% <10.8%>	40.8% <35.9%>	46.2% <52.5%>
「倫理の授業で、自分の考えたことや調べたことを発表する学習は好きですか」	8.1% <6.7%>	43.3% <36.9%>	47.9% <55.5%>

※< >内は平成15年度調査結果

② 教師質問紙調査

教師質問紙でみた場合、倫理の授業で課題解決的な学習を取り入れた授業について、「行っていない方だ」、「どちらかといえば行っていない方だ」とする否定的な回答の割合は約65%であった。観察や調査・見学、体験を取り入れた授業については、否定的な回答の割合は約85%であった。

コンピュータ、学校図書館を活用した授業については、否定的な回答の割合はおおむね85%以上であった。調べたことを発表させる活動を取り入れた授業については、否定的な回答の割合は約75%であった。

発展的な課題を取り入れた授業については、肯定的な回答の割合は約40%であったが、前回調査と比較して、約10ポイント増加している。

倫理の指導状況

質問事項	肯定的な回答の割合	否定的な回答の割合
「宿題を出していますか」	14.6% <11.2%>	81.4% <88.5%>
「コンピュータ（インターネットを含む）を活用した授業を行っていますか」	7.3% <6.2%>	88.7% <93.5%>
「学校図書館を活用した授業を行っていますか」	11.7% <13.1%>	83.6% <86.9%>
「課題解決的な学習を取り入れた授業を行っていますか」	28.8% <28.3%>	67.2% <70.7%>
「観察や調査・見学、体験を積極的に取り入れた授業を行っていますか」	10.6% <7.8%>	85.4% <92.2%>
「調べたことを発表させる活動を取り入れた授業を行っていますか」	20.1% <19.3%>	75.9% <80.7%>
「発展的な課題を取り入れた授業を行っていますか」	38.3% <30.5%>	57.3% <68.8%>
「理解が不十分な生徒に対し、授業の合間や放課後などに更に指導していますか」	37.6% <37.4%>	57.3% <62.0%>

※< >内は平成15年度調査結果

③ 生徒質問紙調査と教師質問紙調査との比較

生徒質問紙でみた場合、倫理の内容について、「よく分からなかった」とする回答の割合が最も高い内容項目は、「哲学・宗教・芸術の意義と人間としての自覚」である。また、特に「現代の特質と倫理的課題概観」の項目は、「好きだった」よりも「きらいだった」とする回答の割合が10ポイント以上高い。「国際社会に生きる日本人としての在り方生き方」、「人間の尊厳と生命への畏敬など現代に生きる人間の倫理」及び「生命、環境、情報社会など現代の諸課題と倫理」の項目は、「普段の生活や社会生活の中で役に立つと思った」の回答が「役に立つと思わなかった」よりもその割合が約10～15ポイント高い。

教師質問紙でみた場合、倫理の内容のうち、質問項目の中では、特に「青年期の意義・課題と自己形成」の内容項目を生徒にとって理解しやすい内容であるととらえ、また、「生命、環境、情報社会など現代の諸課題と倫理」の内容項目を生徒が最も興味をもちやすい内容であると教師はとらえている。逆に「哲学・宗教・芸術の意義と人間としての自覚」の内容項目を、生徒にとって理解しにくく、また生徒が最も興味を持ちにくい内容であると教師はとらえている。

生徒質問紙と教師質問紙でみた場合、教師の回答は、「国際社会に生きる日本人としての在り方生き方」、「人間の尊厳と生命への畏敬など現代に生きる人間の倫理」及び「生命、環境、情報社会など現代の諸課題と倫理」の内容項目については、生徒にとって「理解しにくい」よりも「理解しやすい」とする割合の方が高いが、生徒においては、「よく分かった」よりも「よく分からなかった」とする割合が高い。

「哲学・宗教・芸術の意義と人間としての自覚」については、生徒の回答は、他の内容項目と比較すると、「好きだった」とする回答の割合が最も高く、「よく分かった」とする回答の割合も「青年期の意義・課題と自己形成」に次いで高いが、同時に「よく分からなかった」とする回答の割合が最も高い。この内容項目についての教師の回答は、すでに述べたように、他の内容項目と比較すると、「生徒にとって理解しにくい」「生徒は興味をもちにくい」と回答する割合は最も高い。

また、「国際社会に生きる日本人としての在り方生き方」、「現代の特質と倫理的課題概観」、「人間の尊厳と生命への畏敬など現代に生きる人間の倫理」及び「生命、環境、情報社会など現代の諸課題と倫理」の内容項目については、教師において、「生徒は興味をもちにくい」よりも「生徒は興味をもちやすい」とする回答の割合が高いのに対し、生徒においては、「好きだった」よりも「きらいだった」とする回答の割合が高くなっている。

倫理の各内容に対する生徒及び教師の意識の比較

内 容	生徒質問紙調査						教師質問紙調査			
	よく分 かった	よく分 からな かった	好きだ った	きらい だった	普通の生活 や社会生活 の中で役に 立つと思った	役に立つ と思わな かった	生徒に とって 理解し やすい	生徒に とって 理解し にくい	生徒は 興味を 持ちや すい	生徒は 興味を 持ちに くい
青年期の意義・課題と自己形成	32.3%	31.4%	25.0%	24.6%	30.7%	23.8%	76.4%	4.0%	75.1%	2.2%
哲学・宗教・芸術の意義と人間としての自覚	24.9%	39.4%	27.2%	27.9%	23.2%	29.3%	21.5%	54.2%	28.5%	43.8%
国際社会に生きる日本人としての在り方生き方	18.7%	31.0%	18.3%	22.7%	31.6%	17.8%	47.9%	27.4%	47.9%	26.0%
現代の特質と倫理的課題概観	14.4%	35.1%	13.4%	25.3%	20.4%	22.3%	30.8%	33.3%	47.4%	30.1%
人間の尊厳と生命への畏敬など現代に生きる人間の倫理	21.2%	32.1%	20.0%	23.2%	28.8%	19.5%	37.3%	23.5%	65.1%	16.9%
生命、環境、情報社会など現代の諸課題と倫理	20.2%	29.7%	19.1%	21.1%	32.1%	15.8%	48.9%	10.5%	82.7%	6.0%

「ウ 現代の諸課題と倫理」については、学校や生徒の実態等に応じて課題を選択し、主体的に追究する学習を行うように工夫することとなっている。その際、生命又は環境のいずれか、家族・地域社会又は情報社会のいずれか、世界の様々な文化の理解又は人類の福祉のいずれかにおける倫理的課題をそれぞれ選択するものとしている。

これを教師質問紙でみた場合、授業で取り上げた課題のうち「生命」(46.6%)や「環境」(39.7%)について回答した割合が高く、「人類の福祉」(16.0%)や「世界の様々な文化の理解」(27.5%)について回答した割合が低い。また、生徒質問紙でみた場合、授業で取り上げた課題のうち「生命」(47.9%)や「世界の様々な文化」(37.7%)について回答した割合が高く、「人類の福祉」(22.9%)や「情報社会」(24.7%)について回答した割合が低い。

「生命、環境、情報社会など現代の諸課題と倫理」の内容のうち、授業で取りあげた課題の教師及び生徒の回答の比較

回答 状況	生命	環境	家族・地域社会	情報社会	世界の様々な 文化の理解	人類の福祉
教師	46.6%	39.7%	29.0%	30.5%	27.5%	16.0%
生徒	47.9%	32.1%	29.6%	24.7%	37.7%	22.9%

※各事項の回答は複数回答を含む。

(4) 質問紙調査とペーパーテストとの関係

倫理の勉強を好きと思う生徒、あるいは、倫理の勉強を大切と思う生徒については、ペーパーテストにおける得点が高い傾向がみられる。また、「倫理を勉強すれば、私の人格形成に役立つ」、「倫理を勉強すれば、私は、社会の一員としてよりよい社会を考えることができるようになる」、あるいは、「人格形成に役立つよう、倫理を勉強したい」、「社会の一員としてよりよい社会を考えることができるよう、倫理を勉強したい」と思う生徒についても、ペーパーテストにおける得点が高い傾向がみられる。

倫理の勉強に関することで、分からないことや興味・関心をもったことについて自分から調べようとしている生徒、新聞の生き方や倫理的課題にかかわる内容をよく読んでいる生徒、生き方や倫理的課題について考えるため、テレビのニュース番組をよく見ている生徒については、ペーパーテストにおける得点が高い傾向がみられる。

3. 今回の調査結果を踏まえた指導上の改善点

○ 自分の体験と関連付けて人間としての在り方生き方について考えさせる指導の改善

ペーパーテストによる調査の結果から、自分自身の考え方やこれまでの自分の体験と関連付けて考えさせるような問題は、通過率が設定通過率を下回ると考えられ、指導の改善が必要である。例えば、青年期の意義と課題について単に知識として習得させる指導に終わるのではなく、青年期にある自己の変化など自分自身の体験と重ね合わせて、具体的に自己理解を深め、自己形成を課題としてとらえさせていくような指導の工夫が必要である。また、人間存在にかかわる基本的な課題に対する関心を高め、人間としての生き方を考える上で、人間の在り方についての深い洞察が重要であることに気付かせるような指導の工夫が求められる。高校生として人間としての在り方や人間性への関心を高め、生涯を通じて自分の生き方を探究していくための基礎を築く指導が求められる。

○ 先哲の思想を自己の生きる課題として考える手掛かりとさせる指導の工夫

教師質問紙調査の結果によると、倫理の内容のうち、教師は、特に「哲学・宗教・芸術の意義と人間としての自覚」の内容項目を、生徒にとって理解しにくく、また生徒が興味を持ちにくい内容であるとらえている。また、生徒質問紙調査の結果からも、この内容項目については、「よく分かった」よりも「よく分からなかった」とする回答の割合が高くなっている。しかし、他の内容項目と比較すると、「好きだった」とする回答の割合が最も高く、「よく分かった」とする回答の割合も比較的高いことから、生徒に興味を持たせ、理解を深めさせる手立てを工夫することが求められるとともに、先哲の思想に関する倫理の学習の特性に留意して指導することが重要であると考えられる。

先哲の思想に関する学習においては、人間としての在り方生き方にかかわる基本的な事柄について理解を深め、自己の生きる課題と関連付け、具体的事例を通すなどして、人格の形成に生かす基礎的知識として確実に身に付けさせるとともに、先哲の考え方を手掛かりとして、生徒が自らの課題について思索を深め、倫理的な見方や考え方を身に付けさせるよう指導する必要がある。先哲の思想を構成する基本的な概念については、具体的な理解が求められるのであり、この点に留意して評価することが求められる。

○ 社会の一員としての生き方の探究を促す指導の工夫

生徒質問紙調査において、「社会の一員としてよりよい社会を考えることができるよう、倫理を勉強したい」に対しては、否定的回答の割合が肯定的回答の割合よりも高いという結果が示されたが、肯定的回答の割合は、前回の調査よりも約5ポイント増加している。

倫理に関する学説や概念を取り扱う学習においては、その基本的な理解とともに、内容によっては他の科目等と関連付け、日本や世界の現実の動きや状況も考慮に入れながら、自らの生き方を考えさせるような指導が必要である。自分が現実にも生きている社会状況をとらえながら、自分はどうのように生き、どのような社会をつくっていくのかを、倫理的視点から、考えさせるような指導が求められる。社会生活における人間関係や社会における自己の生き方という視点から、社会の一員としての自己の生き方の探究を促すことが重要である。

○ 生徒の関心をとらえ、主体的な課題追究を促す指導の工夫

平成11年の学習指導要領改訂によって、倫理は課題選択による学習を新たに設け、現代に生きる人間としての在り方生き方にかかわる諸課題の主体的追究を促すことを目指すこととなった。平成17年度の教師質問紙調査の結果から、「課題解決的な学習を取り入れた授業」や「観察や調査・見学、体験を積極的に取り入れた授業」等については、前回調査と同様に依然として否定的な回答の割合が高い。

一方、生徒質問紙調査の結果から、「生命、環境、情報社会など現代の諸課題と倫理」や「国際社会に生きる日本人としての在り方生き方」などの内容項目の学習について、生徒は普段の生活や社会生活の中でのその有用性を感じているといえる。したがって、情報化、

国際化，あるいは生命倫理などに対する生徒の関心も高いと考えられ，しかも，今日，自然と人間とのかかわり，社会生活と自己とのかかわり，国際社会と自己とのかかわりは，高校生にとって日常的で身近な課題となってきた。

現代の倫理的諸課題に対するこのような生徒の関心をとらえ，例えば，課題解決的な学習を取り入れた授業，発展的な課題を取り入れた授業，観察や調査・見学，体験を取り入れた授業，調べたことを発表させる活動を取り入れた授業など，生徒の実態を踏まえて，生徒自身の主体的な課題追究を促すような教材の開発や指導方法の改善が必要である。